

民泊の思い出

会長 田中 豊

私は、山口国体開催の時期にたまたま単位自治会長・地区連合会長として、たまたま民泊協力会の会長となったため、当初は、大変不安でありました。しかしながら、終わってみれば、12の民泊協力会の会長の1人として、生涯2度と体験できないであろうことを達成し、今は喜び、参加していただいたスタッフ全員に感謝しています。（そして、この時期に会長であった自分の運のよさにも感謝しています。）

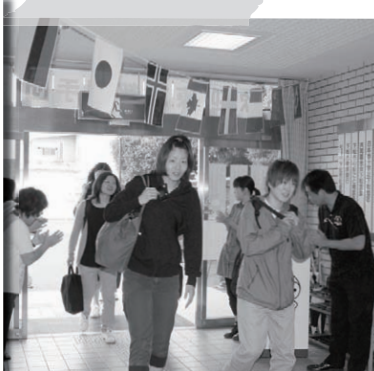
スタッフには、和を持って活動するようお願いし、「顔と金は出す。口は出さない。責任は取る。」の方針で進めました。

9月30日、緊張の中、東京都代表を迎え、あっという間の5日間でした。当初、試合後そのまま帰省される予定が、もう1泊したいとの申し出があり、その日の夜に盛大な送別会も実施いたしました。送別会では選手団の希望により、ヒラメの刺身を提供しました。（運良く地区内の鮮魚店にキャンセルされた大量のヒラメがありました。）また、優勝祈願のダルマには、今後の活躍を祈念し、目入れを行いました。

10月5日午前、選手たちは、民泊の喜びと感謝で興奮していたように思います。反面私は、何か寂しく、一人ひとりと握手するのが精一杯で、言葉になりませんでした。民泊家庭の皆さんと選手とが、別れを惜しんでハグまたハグ、、、。私もますます寂しさが募り、新幹線が発車すると思わず手を振り必死に走りました。スピーカーからは危険注意の放送。

「状況を理解してくれ！！」





民泊の思い出

調理班長 棟居郁子 内富昌子 高橋芙美子 吉田澄子

私たち調理班は約30名で構成され、何度かの講習と実習を重ね、大会に臨みました。

家庭と違い、神経質と思えるほど衛生面が厳しく、はじめは戸惑いましたが、実習を通じでなれました。班長としては、厨房では皆さんが和気藹々とした雰囲気になるように努力したつもりです。4名の班長は、集合時間が早朝4時で、暗く不安でありましたので、1台の車に相乗りし、福祉センターに入りました。そして、ミーティングと準備の後、その日のスタッフ10名で奮闘しました。選手の食事後、翌日の食料調達と忙殺していましたが、明るく元気な選手たちに乗せられ、あっという間に終わってしまいました。

事前に大食いと聞いていましたが、本当でした。体を使うので、おそらく私たちの3倍ぐらいの量ではないでしょうか。好き嫌いなく残さず食べられるとうれしく、励みにもなり、逆に疲れた私たちが癒されました。

試合観戦に行ったときも、バスケットボールのルールはよくわかりませんが、自分たちもびっくりするくらい、60歳半ばの自分達にこんなにもパワーが残っていたのかと思うほど応援しました。

送別会では、家族のような雰囲気で大騒ぎしました。「下松のお母さ〜ん。」と呼ばれ、自然に「は〜い。」と返事をするなど、人生後半になって何から何まで、全てが初体験。

今まで、国体はニュース等で知ってはいましたが、運動音痴の自分には、他人事でした。このたび、調理でお手伝いできたことが喜びであり、国体を身近な行事と感ずるようになりました。

西南民泊協力会の役員、実行委員会ともに携わりました調理の皆様大変お疲れ様でした。

民泊を引き受けて

民泊家庭 石丸恵美子

昨年、民泊家庭を引き受けることとしましたが、不安はなく、いろいろと構想が浮かんできました。まず、部屋の模様替え、クロスの張替え、トイレのリフォーム、網戸の新調と、石丸家の形から入るおもてなしがスタートしました。国体が近づく与会合がちょくちょく始まり、資料を入れたファイルもだんだん厚くなりました。我が家の民泊チームが東京都チームと決まると、チームの情報を集めてコミュニケーション作りの参考にしました。その頃テレビの取材も受け、準備にも気合が入ってきました。前日までにのぼりやジャンパーなどが届き、プランターには「ようこそ石丸家へ」、「めざせ優勝」のメッセージを書き込みました。玄関が少し寂しく感じたため、近所の広告屋さんに横断幕を安く作ってもらい、歓迎ムードは全開でした。

いよいよ当日、主人と娘と3人で歓迎会へ出席し、我が家に民泊する2人と対面しました。2人ともスポーツマンとあって、あいさつもコミュニケーションも最高でした。我が家へ帰り、入浴、洗濯、1時間程度の雑談後、就寝といった初日でした。21時に帰宅し、早朝より食事会場へ移動するため、一緒にいる時間は本当に短時間でしたが、だんだんと気心も通じ合い「お父さん、お母さん」と気軽に声をかけてくれるようになり、本当の親子のようにすごせたと思います。試合も目の前で応援でき、優勝はできませんでしたが、選手とひとつになって戦えたと自負しています。

今振り返ってみると、布団のリース、おやつ・果物の配布は本当に助かりました。選手には果物が大好評でした。また、帰宅時間が異なるため、お風呂のお湯が冷めないよう気を使いました。もう少し、民泊協力会との連絡が密に取ればなお、良かったと思いますが、多くのことを経験させていただき、良い記念になりました。48年に1度の国体に参加できたことを幸せに思います。ありがとうございました。

国体が終わっても選手2人とはメールで連絡を取り合っています。いつかまた、再会できることを楽しみにしています。





東京都代表として優勝をめざし臨んだ山口国体@下松市。結果は残念ながら3位…。納得のいかない結果でしたが、下松の方々と心温まる出会いがたくさんありました。

何ヶ月も前から、私たち東京都代表を迎え入れる準備を進めてくれた役員の方。毎食温かい美味しいご飯を作って、心も体も満たしてくれたママ達。毎日チームに帯同してくれた市役所のイケメン!?2人。たくさんお世話して頂いた民泊の方々。本当にありがとうございました。

私と梅澤さんがお世話になったご家庭は上野邸。なんと「お寺」でした。私たちが通された部屋は30畳!!!さすがお寺です。こんな広い部屋を使ったことがない2人は広い部屋の隅っこに仲良く並んでお布団を敷きました。洗濯機も2台あって本当に快適に過ごすことができました。ただ唯一困ったのは夜のお手洗でした。怖がりの2人はトイレを済ませてお布団に入るのですが、どうしても夜中に目が覚めて、トイレに行きたくなるのでした。もう一人が目を覚ますのを待って、懐中電灯を片手に2人で連れ立って毎晩トイレに行きました。この経験があればこれからの人生も怖いものなしですね。

5日間と短い期間でしたが、本当にありがとうございました。今度は山口県に個人的に遊びに行きます!!!

東京都 バスケットボール成年女子

キャプテン 早野光星

